

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 6月 1日

事業所名 児童デイサービス エデュカール

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	不要な物や道具は倉庫にしまうなどしてスペースを広く使える工夫をしている。	スペースを確保できるよう環境整備を継続する。
	2 職員の配置数は適切である	1	5	保育士、NS、人員が必要。職員不足の際は他部署から応援してもらっている。	看護師の配置。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2		定期的に設備点検を行う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	1	怪我をする危険性がある家具、家電等が固定されていない。毎日清掃・消毒を行い、マットフローリングと活動に合わせて使用している。	毎日の清掃、季節に応じた飾りつけを継続する。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返りに)、広く職員が参画している	2	4	個別支援会議ができていない。今後の課題改善に向けて職員全体がPDCAに向けて取り組んでいなければいけない。	定期的なミーティングでPDCAを活用する。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	2		評価結果を職員で共有し、改善案を出し合う。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2		ホームページでの公開を継続する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5		必要に応じ検討する。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	案内されている研修内容を見て受けている。	情報収集を行い、積極的に研修に参加する。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0		定期的または必要に応じたアセスメントの実施を継続する。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	活用していないが、情報提供を受けている。	引き続き情報提供を依頼する。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援の」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	2	ガイドラインに沿って支援内容を設定している。	ガイドラインの活用を継続する。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	1	より支援計画書に沿えるように職員全体が計画書を閲覧しミーティングを頻回に行っている。	利用前に計画書の支援内容に目を通すようにする。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	3	3		保育士・訓練担当を中心にチームを作る
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	2		新たなプログラムの作成。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0		ご家族、関係各所と情報を共有し組み合わせは検討する。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0		朝のミーティングで確認する。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		終礼を検討する。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0		ケースに残すことを徹底する。
	20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0		年間を通してスケジュールリングを行い定期的実施できるようにする。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0		児発管、管理者を中心としているが臨機応変に対応する。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2	モニタリング会議や担当者会議にて確認している。	引き続き会議等で確認し連携を図る。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	0		モニタリング会議や担当者会議を通して確認し、行う。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	3	お母さんを通して行っている。	引き継ぎお母さんを通して行う。モニタリング会議や担当者会議で直接的な情報共有は可能か、またその手段を確認していく。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	お母さんを通して行っている。入園・入学が対象の子供について今後密に相互理解に努めなければならない。	必要に応じて行う。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	お母さんを通して行っている。モニタリングや臨時の会議等で情報共有し職員間でも共通理解に努めている。	必要に応じて行う。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	モニタリング会議や担当者会議の機会に助言をもらっている。	引き継ぎご家族や相談員を通して行うと共に、モニタリング会議や担当者会議でそのような機会をつくる。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	5	地域の公園で時折。	今後近隣の保育所との交流を検討している。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5		必要に応じて参加する。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	日々の状況を送迎の時やラインで伝え、保護者からの課題について職員間で話し合いを対応している。	積極的にコミュニケーションを図っていく。
保護者への説明責任等	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4		必要に応じ検討する。
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1		計画書の更新のタイミングで行う。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0		更新毎に行う。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	職員全体で周知するようにしている。	定期的に聞き取りを行う。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	そのような会の案内は出している。	委員会をつくり、交流会を企画する。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0		管理者、児童発達支援管理責任者が担当する。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0		月に1度の広報発行を継続する。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	入所時にホームページ、たより等に搭載して良いか確認している。	個人情報取り扱いについて職員全体で周知する。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	子どもとのコミュニケーションは普段接する中で気づいた点を職員全体で共有している。	コミュニケーションの回り方について職員で意見を出し合いよりよい方法を検討していく。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6		今後検討する。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	1	5		月に1度マニュアルに目を通す機会をつくる。訓練も実施していく。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	0	6	定期的に避難訓練をすべきであるとする。	マニュアルを作成し、1年を通し訓練を行う。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6	0	朝のミーティングで周知している。	朝のミーティングでの確認を継続する。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	朝のミーティングで利用者のアレルギーの確認を行っている。	朝のミーティングでの確認を継続する。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1		朝のミーティングで確認する。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	研修を受けている。	定期的に研修を行う。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0		契約時の説明と同意書へのサインを継続する。計画書へは記載するようにする。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。